

会 議 録

会議名	第3回丸亀市総合計画審議会
開催日時	平成29年8月29日（火）10:00～12:10
開催場所	丸亀市役所 本館2階第3会議室
出席者	<p>出席委員 井原理代、森茂、逢坂十美、立山雄一、岩崎正朔、久保田英俊、小池よう子、佐久間知恵、佐々木美紀子、藤田裕子、山下多加子、桑田桃子、直井敏彦、浦山夏穂、森岡翔哉</p> <p>欠席委員 佐藤常光</p> <p>事務局 市長公室長 山田理恵子 （市長公室政策課）課長 山地幸夫、副課長 富士川貴、総括担当長 志村芳隆、主査 宇野大志郎</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画策定に係る各種報告について 2. 第二次丸亀市総合計画 骨子案について 3. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
山地政策課長	ただ今より第3回丸亀市総合計画審議会を開会します。本日の配布資料の確認をさせていただきます。議事の進行は、会長にお願いいたします。
井原会長	<p>議事に入ります前に、本日16名中15名の委員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>まず、議事の1「計画策定に係る各種報告」について事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	<資料に基づき説明>
岩崎委員	<p>地域コミュニティに関わる立場から、地域コミュニティ活性化の取組みについて申しますが、香川県自体の自治会加入率が低くなっており、丸亀市は県内でも低い状況となっています。自由な社会で過ごしたいという考えもありますが、自治会組織率が、交通事故の増加や青少年の犯罪率悪化に影響しているとも考えられており、一定の枠組みで社会を維持することに誰もが努める必要があります。</p> <p>市の考えでは、自治会は任意団体で強制するものではないとのことですが、例えば八尾市では、自治会加入者にはゴミ袋を無料提供するといった取組みがなされています。地域の基盤づくりに自治会が欠かせないことを考えますと、平等と</p>

井原会長	<p>いう立場ではなく公平感のある行政を進めなければなりません。</p> <p>若い世代は自治会を嫌う傾向にありますので、共助の枠組みを変えていく時期に来ていると考えており、私の地元のコミュニティでは、従来の自治会ではなく、コミュニティ直轄のコミュニティ会員の募集に取り組んでいます。</p> <p>丸亀市のまちづくりの大切な柱の一つとして、コミュニティをどのように位置付けていくかは重要です。</p>
山地政策課長	<p>コミュニティ活動に支障が出るなど、自治会加入率の低下は、市の課題となっています。加入率をどう高めていくか、コミュニティの意見もいただきながら進めておりますが、具体的な対策がとれていないのが現状です。</p>
井原会長	<p>外部評価報告書のなかで、成果指標に重きを置くだけでなく、後期計画に掲げられている「施策の展開」や「重点推進プロジェクト」の進行管理の必要性が触れられています。通常は、これらの進行管理ができるように成果指標を設定するのだと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
山地政策課長	<p>成果指標が重点推進プロジェクト等とリンクできていたもの、できていないものがありました。外部評価の結果については、庁内にも周知しておりますが、重点推進プロジェクト等と成果指標が繋がらないものは、今後の課題として、施策の考え方や進行管理について、それぞれの担当で意識を持って取り組めるようにしていきたいと思います。</p>
井原会長	<p>成果指標は定量的なものになる傾向がありますが、重点推進プロジェクト等の進捗をフォローできるような指標や内容を検討していければと思います。それから、地区別の状況につきましては、市域の多様性を認識することと、総合計画にどのように反映するかが課題だと思います。</p>
逢坂委員	<p>地区別の資料から、市内の南部方面だけでなく、中心部でも高齢化率が高くなっていることがわかりますが、市民サービスとの兼合いがどの程度釣り合っているのか考察が必要です。また、香川県全体として車の所有率が高いですが、高齢者ドライバーの事故を背景とした免許証返納の動きの中で、地域の公共交通の利便性は、より重要になると思います。人口の割合は少ないですが、島しょ部の施策をどう考えていくかも課題です。</p>
岩崎委員	<p>外部評価報告書の「行政運営の最適化」のなかでPDCAサイクルについてのコメントがありますが、私も地域防災の関係で、5年間の取組みを巻物のようにして進行管理した経験があります。前年度までに取り組んできたことの確認や継続性など、取組みの軸がぶれないので、総合計画でも着実に実践して欲しいと思</p>

	います。
井原会長	計画の進行管理のあり方について貴重なご意見をいただきました。それと、地区別の資料に関連してですが、丸亀市内のコミュニティには、それぞれまちづくり計画のようなものはありますか。
岩崎委員	各コミュニティで作成し、市へ提出しています。
久保田委員	総合計画の成果指標は市全体として立てるものですが、各コミュニティでの取組みが積み上げられたものですので、地区別の資料は非常に大事だと思います。
岩崎委員	地区別の資料には、地域の資源だけでなく、それぞれのコミュニティがどのような特徴を持って運営されているか、地域の特性があればなお良いと思います。
直井委員	コミュニティごとのまちづくり計画は、どのような指標を立てていますか。
岩崎委員	例えば、防災面で言うと災害用物資の備蓄計画、青少年健全育成であれば、子どもとの交わりの時間をどのくらい増やしていくかなど、地域で抱えている課題を数年後にどのような状態にもっていくかという目標を定めています。
直井委員	私の地元では、コミュニティが地域づくりを担っているという実感はありませんが、市としてはコミュニティに対してどのような役割を考えていますか。
山田市長公室長	各コミュニティがそれぞれの特色を生かして活動しており、防災に力を入れている地域、お年寄りの見守り活動など福祉に特化しているところなど様々です。市としましては、地域の絆づくりや活性化をはじめ、市が進めているまちづくりのなかでコミュニティが担っている部分は大きく、地域のことを一生懸命考えて、市と一緒にまちづくりを進めていただいていると認識しています。
直井委員	外部評価報告書にもありますが、自治会加入率を成果指標として追加してはという意見に私も賛成です。市の目標をコミュニティや自治会にまで浸透させるために、それぞれで目標や計画を持っていただき、進捗を把握することで、市の計画が生きたものになってくると思います。
井原会長	次期総合計画骨子案の柱の一つに「みんなでつくる」と示されていますが、こうしたキーワードにも関わってくるものだと思います。自治会の問題はなかなか妙案の出ない課題ですので、共通の問題意識として持っておいて、最終的に何らかの具体的な施策に結び付けられればと思います。 それから、若者のワークショップに関する報告書がございまして、こちらの審

<p>浦山委員</p>	<p>議会からも浦山委員と森岡委員に参加をいただきましたが、いかがでしょうか。</p> <p>公共交通について、外部評価報告書にも、コミュニティバスの間隔が不便との意見がありますが、ワークショップでも1時間に1本では少ないという話になりました。また、安心して遊べる公園が少なく、見回りの人を増やすなど工夫が必要という意見もありました。それから、丸亀市の姉妹都市であるスペインのサンセバステイアンは美食のまちとして有名ですが、それにちなんだ「丸亀バルフェスティバル」というイベントが、市の旧富屋町商店街で毎年開催されており、注目を浴びているのもっと盛り上げていくべきだという意見など、私も重要であると思いました。</p>
<p>森岡委員</p>	<p>私の大学では、タテとヨコの繋がりを強化するために大学全体の運動会を実施しており、丸亀市でも同じような取組みによって、外国人も含めて老若男女を問わない、まち全体の地域づくりができるのではないかと思います。また、昨年全国1位の伸び率であった香川県全体のインバウンド率を生かすため、高松市で留まっている観光客に、わざわざ足を伸ばして丸亀に来てもらえるような地域資源の情報発信が大切で、若者世代からすれば、インスタグラムなどで、見映えのする華やかなネタを増やしていけば、若者にも丸亀のまちの良さを気付いてもらえるのではないかと、ワークショップを通じて感じました。</p>
<p>井原会長</p>	<p>とても新鮮なご意見だと思います。公共交通の問題は、暮らしやすさの点でどの自治体でも柔軟な対応が期待されていると思いますが、丸亀市の現状はどうなっていますか。</p>
<p>山地政策課長</p>	<p>コミュニティバスは、地域ごとの意見をいただきながら、路線等の見直しを行っています。便数を増やすことで利便性は向上しますが、国の補助基準は乗車率とも関係しますので、現状の収支や運行状況など費用対効果を含めて検討する必要があります。</p>
<p>山下委員</p>	<p>免許返納者がバスの定期券を安く購入できたり、車内に子どもの作品を展示して乗車率を高める取組みをしているまちがあります。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>丸亀市でもコミュニティバスの乗車率を高めるために、園児の作品展示をするなど工夫されています。</p>
<p>井原会長</p>	<p>高齢者が増えていく時代にあって、どうすれば使いやすくなるか、路線などの工夫を重ねながら、市民の足の確保に努めていく必要があります。サンセバステイアンのご意見についてですが、姉妹都市との取組みは国際交流の関係者だけが行うといった状態になりがちですが、そのプラスの要素を市民全体に広げて、丸</p>

	<p>亀市の意欲にも繋げるべきだと、若い方からこうした意見が出ることは本当に素晴らしいと思います。</p>
桑田委員	<p>丸亀バルフェスティバルは一昨年参加させていただき、魅力的なイベントだと思いました。</p>
久保田委員	<p>先ほども少し話が出ましたが、計画は作った後が重要だと思います。個別計画を所管している課の状況や、次の計画での推進体制などどのように考えていますか。</p>
山地政策課長	<p>それぞれの個別計画も、審議会などを通じて策定、進行管理されています。総合計画についても、行政評価委員会で進捗状況についての評価をいただいています。また、毎年度決算の段階で、市議会にも成果指標の進捗を示し、ご意見をいただいています。</p>
久保田委員	<p>計画の所管課が集まって、進捗状況や課題の確認など行う場はありますか。</p>
山地政策課長	<p>個別計画の進行管理は、それぞれ担当課に委ねております。市全体の体制としては、庁議の場を利用するなどして、取組みの報告や調整を行っています。</p>
久保田委員	<p>計画の中身も大事ですが、推進体制も同じくらい重要だと思います。</p>
井原会長	<p>様々な具体的にご意見をいただいたところですが、全体的に感じるころとしましては、第一次計画からそんなに大きな変更は必要ないのではないかとということ、まだ目標が達成できていない部分も多く、大きな柱としては第一次計画の脈絡のうえに、ご意見をいただきながら進めていくという方向でよろしいでしょうか。それでは、そうした方向のもとで、次期計画の骨子案について、事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	<p><資料に基づき説明></p>
直井委員	<p>住みよさランキングの話がありましたが、地域づくりにおいては、地域を楽しむ力が、まちおこし、ひいては住みやすい暮らしに繋がるキーワードになると思います。</p>
井原会長	<p>総合計画のまとめ方として、詳細な基礎版と市民版の2つをつくるということについて、どのようなわかりやすさで示していくかは今後審議が必要ですが、その方向性でよろしいでしょうか。</p> <p>それから、総合計画の中身の方ですが、ポイントとしては、ビジョン・理念と</p>

逢坂委員	<p>施策体系をパラレルにまとめてリンクさせていきたいとのことです。また、ビジョン・理念で、5つの方針が示されており、第一次計画と表現は違いますが、それほど中身は変わっていないと思います。</p> <p>分かりやすさという点からすると、こうしたまとめ方になると思いますが、一つ一つの方針が独立していて、全く別々なもののような印象を受けます。例えば、「みんなでつくる」と「心豊かな子どもが育つ」は非常に関係があり、「活力みなぎる」の前提には「安心して暮らせる」状態があると思います。それぞれ5つの方針がどのように絡んでいくのか、複雑になるかもしれませんが、関係図のようなものがあっても良いのではないかと思います。</p>
井原会長	<p>見せ方が重要になると思います。それをまとめあげるのが将来像で、5つの方針が合わさった時に、丸亀の将来像が実現するということになるのではないかと思います。将来像の説明として、ただ今のご意見を書き込む、あるいは図示するなど考えられます。</p> <p>重点施策に従来の実施計画の性格を持たせていきたいという説明もありましたが、具体的な内容が示されないとわからない部分が多いので、この点は行きつ戻りつ進められればと思います。</p> <p>表現が少し変わることはあるかもしれませんが、この5つの方針にそれほど違和感はないように思います。また、体系イメージとして、第一次計画では、施策体系の中から重点的取組みをピックアップし、重点課題を改めて3つに分類して示していましたが、次期計画では、ビジョン・理念に基づく重点施策と、施策体系の分類を、パラレルにリンクさせてまとめたいとの考えです。こちらの方が分かりやすいと思いますが、これを出発点として進めていくということによろしいでしょうか。</p> <p>それから、「丸亀市の現在」の項目に、SWOT分析によるまちづくりの方向性とありますが、これまでに行ったことはありますか。</p>
政策課 宇野	<p>前回の総合計画でSWOT分析はしていません。</p>
井原会長	<p>SWOT分析は分かりやすい分析が可能ですが、だからこそその妥当性を十分に考えて作成されるようお願いいたします。</p>
直井委員	<p>目標人口は、どのように考えていますか。</p>
政策課 宇野	<p>平成27年に、人口減少対策に特化した個別計画である総合戦略を策定していますが、そちらで示している人口推計の数値をもとに考えていきます。</p>
直井委員	<p>総人口だけを指標にするのではなく、高校や大学の卒業後、戻ってきた方も含</p>

	<p>めて引き続き丸亀に住んでいる方の数字も分かれば、若い世代が丸亀に残る原動力になるかと思います。また、「目指すまちの姿」に関連して、香川県全体の観光入込客数からすると、香川県に来た方が丸亀に行ってみようと思う割合は低いです。</p>
井原会長	<p>暮らしやすいし、丸亀に行ってみようということになるのが、この審議会としても共通の願いですし、そういう総合計画になればよいと思います。</p> <p>将来像について、①第一次の田園文化都市という表現を生かす考え方と、②のわかりやすい表現にするという考え方が検討されていますが、各委員はどちらの方向性がよいとお考えでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>たくさんの人に知ってもらうためには、②の方が覚えやすいと思います。</p>
佐久間委員	<p>今回は端的でわかりやすいというコンセプトで進めていますので、シンプルな方が耳に残りやすいと思います。</p>
小池委員	<p>行政資料は漢字が多く、なるべく分かりやすい言葉で、訓読みでという方向でいうと、わかりやすく優しい印象が今の時代にマッチしていると感じます。</p>
久保田委員	<p>田園という言葉自体が、これからの丸亀のイメージにそぐわない気がします。丸亀という言葉は是非入れて欲しいと思います。</p>
立山委員	<p>シンプルな方が良いと思います。第一次計画の将来像に、人が輝くという表現がありますが、人が輝き、未来をつくる丸亀というのはどうでしょうか。</p>
逢坂委員	<p>田園文化都市ではなく、わがまちに誇りを持つという意味でも、丸亀という表現で言い切っても良いと思います。</p>
森岡委員	<p>シンプルなほうが良いと思いますが、ありふれた言葉で、他の都市で使われている言葉に負けてしまうと、目にも止めてもらえないので、簡単な言葉でも、他で使わないような言葉選びが重要だと思います。</p>
浦山委員	<p>たくさんキーワードを使うよりも、端的に表す方が目にも止まりやすいです。</p>
直井委員	<p>他の市町と比べると、どちらも目立たない印象を受けます。楽しむ力に溢れるまち丸亀はどうでしょうか。</p>
桑田委員	<p>私たちのような就職して間もない、行政に関心のない世代に少しでも興味を持ってもらう意味では、②の方向性だと思います。</p>

山下委員	年齢問わず、小学校の子どもでもわかるよう、シンプルに表現しすぎるくらいで良いと思います。
藤田委員	丸亀がこれから何を一番大事にしていくのかを考えたときに、まさに未来を担うこどもたち、人が一番の財産だと思いますので、人が輝き、未来をつくる丸亀という表現は良いと思いました。
森副会長	小さい子どもでもわかるようなもので、全てを言い表したような表現が良いと思います。
井原会長	共通しているのは、「田園文化都市」のような表現ではなく、丸亀という言葉で締めて欲しい、小さい子どもでもわかるような表現にして欲しいということのように思いますので、この方向性でさらに検討いただきたいと思います。最後に、その他で事務局より何かございますか。
政策課 宇野	<p><次回の日程について説明></p> <p>それでは、以上を持ちまして、本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>